

テーマ「岐阜基地は今、どうなっているのか？」

話題提供 鷺見 鎮一 さん（岐阜県平和委員会常任理事）

まず、鷺見さんから川崎重工岐阜工場で44年間働き、退職までの経歴が紹介され、会社で知り得た情報を秘匿するよう圧力がある中での活動である一面が述べられました。お話は、詳しいレジメ「航空自衛隊岐阜基地の報告（戦争法で基地がどう変化しているのか）」に添って、大変分かりやすく進められました。

はじめに、戦前の岐阜基地から今日までの変遷について説明がされました。岐阜基地が明治初期に旧陸軍の大砲射撃場として開かれ、1917年（大正6年）陸軍各務原飛行場として開設され、日本で立川基地に次いで2番目の飛行場であったこと。1945年、米軍による空襲を受け多くの市民の犠牲があったこと。そして、1953年米軍から基地の一部返還まで米軍の進駐、キャンプ那加基地となり、1955年米海兵隊、第3海兵師団が沖縄に移転するまで岐阜が駐留基地であったこと。その後、1958年に米軍から基地返還され、今日に至っている歴史が説明されました。

去年、飛行場開設100周年であった。戦時中、米軍が空撮した写真の資料を示し3本の滑走路を備えた航空基地として各務原台地が選ばれた立地条件の良さが述べられました。そして、1988年（S63年）に日米地位協定によって日米共同使用基地になっており、現在、基地には1900人の自衛隊員が配置されているとのこと。

次に、岐阜基地の現状を、組織・役割について報告されました。

基地には、航空自衛隊補給本部第2補給所が置かれ（全国に4箇所）、航空自衛隊で使用する航空機、ヘリ等の全ての部品の補給をおこなう最大の部隊であること。基地には真空コンテナを備え、5年間痛まなく緊急事態に備えいつでも補給できるとのこと。

また、飛行開発実験団がおかれ、中心的部隊とのこと。防衛省技術研究本部のテスト飛行や各種試験を行っている。2016年に日本の技術で開発したステルス機が配備され、航空自衛隊の最新の訓練をやっているとのこと。

第4高射本部第13、15高射隊が配備されており、岐阜基地のただ一つの実践配備部隊であること。第12隊（滋賀県饗庭野）、第14隊（三重県白山）も含め、本家本元になっているとのこと。ナイキJ、パトリオット・PAC3などが配備されている。また、敵機ミサイルは饗庭野・白山・岐阜の3基地のレーダー網で捕捉し、高度や方向がすぐにとらえられ、射程は20キロ、長い方で100キロ迎撃できる性能がある。しかし、ミサイルを移動・配備しても実際は向けているだけで、1発1億円から5億円もするそうで打たないとのこと。年に1回だけ高射隊が全部そろってアメリカの砂漠にある基地で実射しているが1発だけ打つとの話も。

さらに、基地には自衛隊岐阜病院があり、航空自衛隊の4病院の一箇所とのこと。病院と聞くと良さそうなのだが、ベッド数は100床あるが、できてから入院患者は一人もないとのこと。自衛隊員の家族の診療はするが、戦時病院との位置づけのため診療はするが入院はさせないので、ベッドは患者無しの状態とのこと。20年ほど前、各務原市民が市民病院の無いことに抗議し、運動したが厚労省の基準では自衛隊のベッド数が加わるた

め造れないとされている。

そして、大変注目される話として、ここの病院は空中給油施設みたいなもので、大きなコンテナの中に医師、看護師、救急救命士と空調管理する技師4人が乗り込み、飛行機で運ぶコンテナで負傷した隊員を4名手術もできるようになっている。輸送機は小牧にあり、今のC2輸送機だと空中給油するとノンストップで世界中どこへでも行け、このコンテナを3つ積むことができるとのこと。このようにコンテナを使って実践配備するような形に生まれ変わってきているとのことのお話で、戦争を想定した態勢が作られている事に驚きました。

その他、航空機の管制隊、基地を中心とした気象業務をする気象隊が置かれているとのこと。

これとは別に、岐阜地方警務隊というのがあり、戦前の憲兵隊の役割をする組織があるとのこと。

また、岐阜地方教育本部が置かれ、陸・海・空自衛隊の隊員募集の窓口となっている。ここが何をやっているか、皆さんに知ってほしいと前置きされ、昨年調べたらいろんなことをやっている。各地の祭りや花フイスタなどイベントに岐阜地本ブースのテントを出して教室、展示、隊員募集をやっている。半年で20回くらい、大きいのは守山の陸自から装甲車を借りてきて展示や子どもたちに触れさせたり、また中高生を対象に職場体験として岐阜基地に50校くらい招く等、広報、宣伝が頻繁に行われているとのこと。

防衛省技術研究本部があり、ステルス戦闘機の開発・研究をおこなっており、実証機の試験を行っている。

また、陸上自衛隊第6施設群第369施設中隊があり、県下唯一の陸自で災害派遣などを行っているとのこと。

以上のような航空自衛隊岐阜基地の歴史、概要をお聞きし、みなさんから質問や感想が熱心に意見交換されました。あらためて岐阜基地の実態を知り、恐ろしくなったとの感想や、実践部隊として高射本部はいつ頃から配備されたのか？ 地元の同意は？ 基地のジェット機騒音、オスプレイの配備の可能性など質問にたいする説明がされました。

航空祭やブルーインパルスに「かっこいい」といった市民の反応があるが、F35B戦闘機は護衛艦を空母に改修して配備される状況を考えるべきだとの意見も。

安倍政権は、軍事費の増強とともに敵基地先制攻撃できる高額な兵器を購入配備し、日米安保体制のもと参戦をめざす軍事強国化を進めています。安保関連法（戦争法）が強行成立した中で、自衛隊基地の存在、役割が大きく変貌していくことが予想されます。

基地の監視・調査を続けてこられた鷺見さんは、岐阜基地にもっともっと関心を持って頂きたい、そしてこの地に住んでいる私たち住民がどれだけ声を挙げるかが大切であり、熱意をこめて運動を広めていきたいと結ばれました。